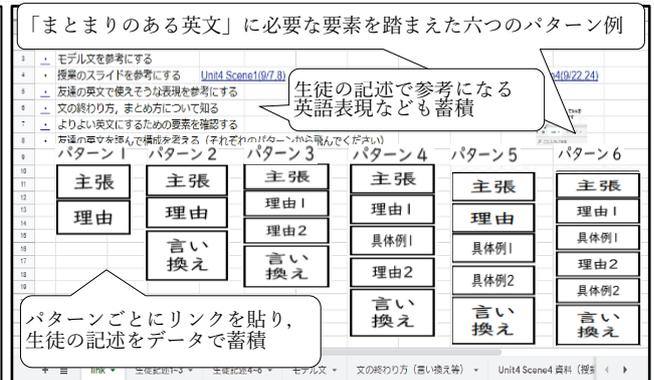


授業改善の工夫	「自分の考えを整理・深化させる活動の工夫」
---------	-----------------------

中学校 英語科学習指導案 第3学年	
単元名	Unit4 Be Prepared and Work Together (NEW HORIZON English Course 3)
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・安全への関心を高め、地域の一員として防災に取り組む意識をもつことができる。</li> <li>・日本の生活に慣れていない在留外国人が、災害時にも安心・安全に生活するために必要なことを考え、まとまりのある英文で表現することができる。</li> </ul>
単元の流れ	<p>&lt;全8時間&gt; (★：生徒に示す学習課題)</p> <p>Starting Out . . . . . (1 / 8)</p> <p>★What will you tell to Sam at first? Why?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に示されたアンケート四項目の中から、サムに最初に伝えるべき情報について考え、まとまりのある英文で記述する。</li> </ul> <p>Dialog . . . . . (2, 3 / 8)</p> <p>★Which one should Meg prepare for? Why?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と共有した資料をもとに、優先して非常用持出袋に準備するものを考え、まとまりのある英文で記述する。</li> </ul> <p>Read and Think① 【事例有】 . . . . . (4, 5 / 8)</p> <p>★What will you tell to foreigners coming to Japan for the first time? Why?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に示された、日本で地震にあった外国人の体験談を踏まえ、災害時に役立つ情報を考え、まとまりのある英文で記述する。</li> </ul> <p>Read and Think② . . . . . (6, 7, 8 / 8)</p> <p>★Tell important things about an earthquake to new ALTs.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の外国人支援について、実際に行われた取組を踏まえ、日本に初めて住むALTに向けて役立つ情報を考え、まとまりのある英文で記述する。</li> </ul>
準備物	教科書、ノートPC、ワークシート(※1)、「構成ストック」(※2)



※1 課題の把握から英文の完成まで、一枚のシートを使用



※2 生徒がこれまでに書いた英文を蓄積した、生徒間の共有データ

本時のねらい（第4，5時）

日本で地震にあった外国人の体験談を踏まえ、災害時に役立つ情報をまとまりのある英文で書くことができる。

生徒に示す本時のねらい

You can write your opinion of the useful information for a disaster to foreigners coming to Japan for the first time.

学習過程（4，5時間目/8時間）

段階	学習内容・生徒の活動	時間	○指導上の留意点等 ◆評価
導 入	1. スモールトークを行う。	3	○「海外で生活すること」についての対話活動を通して、題材に使用される単語に出合わせる。
	2. 本時の課題を把握する。 What will you tell to foreigners coming to Japan for the first time? Why?	5	○在留外国人数や訪日外国人数の推移、在留外国人に対して行ったアンケート結果を生徒に示し、課題について考える必要感をもたせる。
4 時 間 目	3. 課題に対する考えを英語で記述する。	2	○生徒が現在もち合わせている知識のみで考えさせることで、自分に必要な学習内容を意識させる。
	4. 教科書を読み、地震が起きた際の在留外国人の困り事を知る。また、映像資料を視聴し、教科書で述べられた困り事以外の困難を知る。	15	○日本に住んでいれば知っていることも、外国人にとっては知らないことが多いことに気付かせるために、生徒の生活経験と比較しながら読ませたり、映像資料を示したりする。
	5. 課題に対する考えを改めて記述し、生徒同士で意見を交換する。	5	○対話により、生徒自身では気付かなかった新たな視点に気付かせる。
	6. 初稿のアウトラインを作成し、課題に対して広がった考えを整理する。	5	○「構成ストック」を活用させることで、自分がもっている考えを「主張」や「理由」、「具体例」といった観点で整理させる。
	7. 初稿を記述する。	15	○作成したアウトラインを基にして、英語表現の間違いを気にせず記述するよう促す。
	8. 前時の課題を確認し、初稿を読む。	5	○課題解決の達成度を、初稿を振り返ることで考えさせ、学習の見直しをもたせる。
	9. 第2稿をまとまりのある英文にするために必要な構成要素と、それを得るための学習方法を決定する。 学習方法の例 教師に相談、生徒同士の初稿の読み合い、「構成ストック」を活用した自力解決など	5	○「構成ストック」を再度活用させ、まとまりのある英文に必要な構成要素の有無について見直させる。学習方法を自分で決定させることで、学習の自己管理を意識させる。
5 時 間 目	10. 自身で決定した学習方法で初稿を推敲する。	20	○必要な情報や英語表現を、初稿に朱書きして書き足すよう指示する。 ○生徒がこれまでに書いたモデルとなる英文を、「構成ストック」の共有データとして蓄積しておくことで、生徒がいつでも参考できるようにする。
	11. 第2稿を記述する。	15	◆日本に初めて住む外国人に伝えるべき情報を、まとまりのある英文で分かりやすく記述している。(ワークシート)
ま と め	12. 学習を振り返る。 <u>振り返りの観点</u> ・外国人に役立つ情報を、まとまりのある英文で書くことがどのくらいできたか。 ・課題をよりよく解決するために、さらに必要なことは何か。	5	○課題解決の程度を振り返らせ、さらに必要な学習方法を次時で考えられるようにする。 ○英文が完成するまでにできるようになったことや変化を記述させることで、生徒自身が変容を実感できるようにする。